

特集：エチオピアの活動 FOCUS ON ETHIOPIA



Newsletter
April 2024

1. エチオピア事務所長 メッセージ

親愛なる SAA パートナーの皆様

ササカワ・アフリカ財団（SAA）のニュースレター 2024 年 4 月号へようこそ。

2021 年からスタートした SAA の 5 か年戦略は、4 年目を迎え、今年も半分が過ぎようとしています。SAA が農家と共に歩んだ軌跡から得た知識や経験、現場における変化を、本ニュースレターを通じてパートナーの皆様と共有できることを嬉しく思います。

本号では、エチオピアの取り組みにフォーカスし、その活動内容と現地からの声をお届けします。巻頭は、エチオピア・メケット郡におけるバーミウォッシュ（ミミズコンポストから抽出した液体）の効果を探るストーリーで、持続可能な環境再生型農業の実践の一つとして、生物農薬としての活用を検証しています。

農村に農業資材販売グループを設立したアグロ・ディーラーシップ・プログラムのストーリーでは、若者の雇用創出や遠隔地の農家への助言サービスとセットになった農業資材供給という観点から、また、農業普及員の再教育に関する記事では、現場のニーズに対応できる、より高度で包括的な専門知識の習得を可能とするカリキュラムの提供という観点から、事例を紹介しています。

農業普及のデジタル化をテーマとした記事では、SAA が開発したモバイルアプリ「Ma'ed」が、農家に最新の知識や技術をタイムリーに提供する重要性を確認していただけます。

また、農家や関係者に環境再生型農業の実践に関する貴重な知見を提供し、高評価を得た「開発政策・人材育成基金（PHRDG）プロジェクト」による直近のフィールドデーイベントや、人と環境の健康のための安全で責任ある農薬使用に関するハイレベル実務者・ワークショップ、エチオピア農業組合委員会のシンポジウム出展からハイライトをお届けします。

本号が、皆様にとって有益な情報源となりますようお願いしております。また、皆様からのご意見・ご感想は、私たちの継続的な改善にかけがえのないものです。



Fentahun Mengistu
SAA エチオピア事務所長

※本ニュースレターは、英語版オリジナル(URL: <https://saa-safe.org/newsletter/may-2024/>)の翻訳版となります。

本号の内容

1. エチオピア事務所長メッセージ... 1

2. 現地からの声... 2

病虫害防除にバーミウォッシュ散布の効果が表れる
若者の雇用創出に貢献するアグロ・ディーラーシップ・プログラム
SAAの農業指導アプリ「Ma'ed」の利用で、普及員の助言サービスが改善

3. 活動報告... 4

エチオピア・ジンマ県の農家が環境再生型農業のポテンシャルを実感
SAAとバハルダール大学の共同開発による普及カリキュラムが始動

4. ニュース... 5

人と環境の健康のための安全で責任ある農薬使用に関するハイレベル実務者ワークショップを開催
農業組合複合イベントに参加（於：アディスアベバ）

5. その他の活動国からのニュース... 7

SAA会長がマリを訪問、パートナーとの協力関係を構築
ウガンダの農村コミュニティ指導者、金融研修で能力向上
SAAマリ事務所、年次ステークホルダー会合を開催
SAA、AFSTA2024年次会合（於：ケニア）で持続可能な農業への取り組みを紹介
SAA、ナイジェリアで農業普及員を対象としたシーズン前研修を実施

2. 現地からの声

病虫害防除にバーミウォッシュ散布の効果が表れる



エチオピア・メケット郡の2村（コキット／タグバ・メスケル）では、農家がバーミウォッシュ（ミミズと有機層

を含む土壌に水を通して滲出された液体）を散布し、作物の病虫害防除と小麦の生産量向上に成果が表れています。

バーミウォッシュは、ミミズの粘液分泌物と、バーミコンポスト（ミミズコンポスト）の堆肥化プロセスで滲出される液肥が混合された液体です。バーミウォッシュの成分は、コンポストに投入する有機物によって違いはありますが、一般的には、バクテリア、粘液、ビタミン、ミネラル、ホルモン、酵素、抗菌ペプチドが豊富に含まれています。ササカワ・アフリカ財団（SAA）は、これらの成分により、さまざまな病虫害を抑制し、作物の成長と生産性向上に貢献するバーミウォッシュを普及してきました。メケット地区では、生育初期の小麦に、ヨトウムシやさび病による被害が発生していましたが、バーミウォッシュの散布で抑制効果が表れています。種子を保護するコーティング剤は、アクセスやコスト面の課題から利用は限られており、農家は病虫害の被害を緩和するため、より多くの種を蒔くことで収量を確保してきました。

2023年のシーズン前研修では、SAAのトレーニングを受けた農業普及員と2村の専門員が、農家にバーミウォッ

シュの製造／使用方法を指導し、それぞれの農家研修センターにバーミウォッシュ・ユニットを設置しました。プラスチック製の樽（350L）の底に砂利と砂のフィルター層（砂利 20cm、砂 20cm）を敷き、その上に有機物とミミズの層を入れます。毎日 5L の水を樽上部の開口部から散布し、17 日目以降に滲出された茶色い液体を採取して使用しました。作物生産の 1 シーズンで、150.25L のバーミウォッシュ（タグバ・メスケル村では 74.25 L、コキット村では 76L）を生産することができました。

バーミウォッシュは、ヨトウムシ対策として小麦の種子処理に、さび病抑制を目的に葉面散布されました。2 村のホスト農家と地域の種子生産組合員には、1 人 1L のバーミウォッシュが配布され、植え付け前の小麦種子 15kg を処理しました。農家、普及員共に、種子処理を施した小麦は、未処理のものに比べて、定着率の改善が見られたと報告しています。



さらに、コキット村の農家研修センターでは、2 か所の小麦圃場 100 m²を対象に、バーミウォッシュ 40L/ha を散布した場合と、殺菌剤 0.5L/ha（Tilt 250 EC）を用いた場合において、さび病の防除効果を確認しました。両圃場ともさび病発生後の開花期に散布し、両処理とも防除・抑制効果が認められました。一方、無処理の圃場はさび病の影響を強く受けました。

この観察結果から、バーミウォッシュは、費用対効果と利用性に優れ、環境再生型農業に適した生物農薬であることが確認されました。今後、バーミウォッシュの利用をさらに拡大するには、コンポストに投入する有機物の配合や有効性に関する更なる研究が不可欠です。

若者の雇用創出に貢献するアグロ・ディーラーシップ・プログラム

エチオピアの 4 郡（ネグレ・アルシ、アナソラ、メケット、アンガチャ、キウェット）で、3 年間にわたり支援してきた 6 つの農業資材販売グループの取り組みが成果を上げ、若者の雇用機会の提供と所得向上に貢献しています。

同取り組みは、日本財団とバイエル社の資金提供により 2021 年に開始したプロジェクトで、ササカワ・アフリカ財団（SAA）が設立を支援した 4 つの青年農業資材販売グループを対象に、農業資材（18,231 米ドル相当）の提供とアグロディーラーの能力開発を実施しました。

グループは、農薬、保護具、種子、密閉式穀物貯蔵袋（PICS）、噴霧器などの農業資材の提供を受けるとともに、それらの基本的な知識（農薬の適正使用や農薬中毒が発生した場合の緊急治療法などを含む）を習得しました。

2022 年の記録によると、中央エチオピア州とオロミア州の 3 つの農業資材販売グループが 1,060 以上の近隣農家にサービスを提供し、年間 14,308 米ドルの売上を上げています。

ネグレ・アルシ郡とアナソラ郡では、インフレや資金的制約がグループの取り組みに影響を与えましたが、追加支援（農業資材 14,120 米ドル相当）を受け、取り組みを継続させています。

2023 年、SAA はプログラムを拡大し、2 つのグループを支援対象として追加。30,085 米ドル相当の農業資材を提供しました。また、農業資材販売グループと卸売業者、流通業者間のリンケージを構築し、農業資材へのアクセスを確実なものとした。

同取り組みは、小規模農家の信頼できる農業資材とアドバイザリーサービスへのアクセスを可能にし、若者の雇用機会と生計の安定に貢献しています。



SAA の支援を受け農業資材販売店を営む青年

SAA の農業指導アプリ「Ma'ed」の利用で、普及員のアドバイザーサービスが改善



農業普及員のエヨブ・メンゲシャさん（32 歳）は、農業支援アプリ Ma'ed Farm Suite (MFS) を利用することで、遠隔の農村においても、農家にアドバイザーサービス（農家に技術や知識を助言するサービス）を提供できるようになりました。MFS アプリは、作物毎の栽培情報が得られるモバイルアプリで、オフラインでも情報にアクセスすることが可能なため、普及員が場所を問わず、農家にサービスを提供できるというメリットがあります。同アプリは、ササカワ・アフリカ財団（SAA）が推進するデジタル技術（トーキング・ブックや OA 機器を整備した研修施設）を補完する目的で 2022 年に開発されました。

修士号を持つメンゲシャさんは、SAA のデジタル農業普及プログラムを通じて MFS アプリの研修を、最も早く受けた普及員の一人で、これまでに、150 の小規模農家（17%が女性）にサービスを提供しています。農業普及のデジタル化が、小規模農家へのサービスの質とタイミング、インクルーシブネスの向上に寄与することが、彼の普及活動が証明しています。

「SAA の研修と農業情報へのアクセスにより、環境再生型農業やポストハーベストなどのリソースを十分に活用できるようになりました。農家に最新の技術やアドバイスを提供する能力が大幅に向上したと感じています」とメンゲシャさんは話します。

彼はさらに、若い農家が MFS アプリについて興味を持っており、アグリビジネスを強化するツールとして活用できる可能性を示唆しました。

「アプリをより効果的に利用するために、農業と畜産の統合、園芸、パーマカルチャー、栄養学、畜産業などの分野をカバーする情報を追加してほしい」とメンゲシャさんは話します。

MFS アプリの利用は、インクルーシブな農業部門の発展を目指すエチオピア政府の戦略「デジタル・エチオピア 2025」に沿ったもので、エチオピア農業省が掲げるデジタル農業ロードマップと合致しています。

3. 活動報告

エチオピア・ジンマ県の農家が環境再生型農業のポテンシャルを実感



2024 年 3 月 19 日、エチオピアのジンマ県、セカ・チェコルサ郡シャシメネ村にて、約 170 人の農家（30%が女性）、普及員、研究者などが、小麦生産における環境再生型農業（RA）の技術とメリットの波及を目的としたフィールドデーに参加しました。

同イベントは、日本政府がアフリカ開発銀行を通じて支援する「開発政策・人材育成基金（PHRDG）」による「[「アフリカの気候変動に対応するための科学的根拠（エビデンス）」に基づく環境再生型農業プロジェクト（EbRACCA）](#)」の一環として開催され、高収量・早生・耐暑性の小麦品種 Deka の採用、パーミコンポスト、化学肥料、酸性土壌改善を目的とした石灰の施用など、環境再生型農業（RA）の実践技術が紹介されました。また、RA の実践を取り入れた圃場では、従来型の圃場に比べ作物の生育が良いことが確認されました。



農家は、石灰施用による土壌改善効果、また、パーミコンポスト（ミミズ堆肥）との組み合わせで土壌肥沃度を改善し、作物の生育を向上させる効果があることを認識して

います。ジンマ県農業局のレヒマ・ガリ副局長は、同県は耕作地の 47%が pH5.5 以下の酸性土壌であることを指摘し、RA 実践の重要性を述べました。同氏は、農家が RA を採用し拡大していくよう奨励するとともに、必要な資源の入手方法や技術支援に関する農家からの質問に回答し、地区農業事務所長のムステファ・ヌレディン氏とともに、石灰やパーミコンポストへのアクセスを容易にし、技術支援を提供することを約束しました。

コミュニティにパーミコンポスト・センターを設置し、農業普及員の支援を受けながら農家がパーミコンポストを生産できるよう支援することで、RA の普及と拡張性をさらに高めることが提案されました。

SAA とバハルダール大学の共同開発による普及カリキュラムが始動

エチオピアのバハルダール大学では、農業普及員教育プログラムが刷新され、作物、家畜、天然資源、園芸の改良技術を包括したコースが新たに開講し、160 人の学生（50%が女性）が入学手続きを完了しました。同様に刷新カリキュラムを導入したウォロ大学においても、多くの入学希望を受け付けています。

同普及カリキュラムは、農業普及員の教育プログラムを現在の農業セクターのニーズに適合するため、ササカワ・アフリカ財団（SAA）が、バハルダール大学の協力により 2023 年に改訂したものです。これは、アムハラ州農業局が、同地域の農業普及員教育プログラムの卒業生が 11,000 人を超えていることを受け、彼らに再教育の機会を提供し、教育レベルを学位レベルまでアップグレードす

ることを求めたものです。

SAA とバハルダール大学が開発した刷新カリキュラムは、農業普及とコミュニケーションに重点を置いた従来のカリキュラムから大きく転換し、天然資源、家畜、作物の効果的なマネジメントを組み込んだ包括的なコースへと生まれ変わりました。新しいカリキュラムは 2023 年 3 月 6 日、アムハラ州農業局、民生委員会、バハルダール大学、ゴンダール大学、ウォロ大学の関係者 60 名が出席するイベントで公表されました。同イベントでは、アムハラ州農業局とバハルダール大学が、農業普及員教育の刷新カリキュラムに係る覚書を締結しました。

4. ニュース

人と環境の健康のための安全で責任ある農薬使用に関するハイレベル実務者ワークショップを開催

2024 年 2 月 12 日、ササカワ・アフリカ財団（SAA）は、エチオピア農業省、エチオピア農業局、バイエル・イースト・アフリカ社と共同で、農薬の適正使用と課題、規制の枠組み、安全で責任ある使用のための戦略などの議論を目的とした高級実務者ワークショップを開催しました。

ワークショップには、農業省のエファ・ムレタ次官や農業局のドリバ・クマ局長などの政府高官をはじめ、さまざまな関係者ら 98 人が参加しました。

農業省、農業局、エチオピア農業研究所（EIAR）、CropLife Ethiopia、Pesticide Action Nexus Association-Ethiopia から発表された 6 本の論文では、農薬の輸入、配合、規制、取引、使用、廃棄などの内容が扱われました。特に懸念されたのは、農業バリューチェーン全体を通じて、農薬の安全性や適正使用に関する知識／技能が広く不足している点です。

ワークショップでは、次の提言が示されました。

➤ 農業省、保健省、環境保護局、その他関連省庁との連携を強化し、農業バリューチェーン全体における農薬の適切な取り扱いと管理の徹底。

アムハラ州農業局とバハルダール大学の署名式の様子



農業使用に関する高級実務者ワークショップ



- 農薬の適正使用に係る普及パッケージの開発。
- 分野別インフラ整備のためのリソース動員。
- エチオピア政策開発研究所（Ethiopian Policy Development Institute）が策定した農薬政策の検証と承認。
- 保護具の輸入に対する免税。
- 規格外／違法製品の検品、および農薬の品質管理を目的とした検査機関の設立。
- -措置の効果的な実施のためパートナー間の定期会合。

同イベントには、アディスアベバ市長のアダネク・アベベ氏をはじめ、エチオピア農業大臣のギルマ・アメンテ博士などの政府高官が参加。SAA は、展示ブースを設け、農村で実践する持続可能な農業、ポストハーベスト、農産物加工、栄養、アグリビジネス、農業普及のデジタル化などの取り組みを紹介しました。

農業組合複合イベントに参加しました（於：アディスアベバ）

2024年2月8日～13日、ササカワ・アフリカ財団（SAA）は、エチオピア農業組合委員会（Ethiopian Cooperatives Commission: ECC）のパートナーとして、アディスアベバで開催された第10回全国および第3回アディスアベバ農業組合展示、バザー、シンポジウムに参加し、現場で推進する改良技術の紹介や意見交換を通じて、関係者とのネットワークを構築しました。



SAAのブースには、250人を超える来場者が訪れ、農業開発におけるSAAの役割に高い関心が示されました。ブースを訪れた関係者とは、化学肥料への過度の依存の低減と環境再生型農業への移行、ベストプラクティスの拡大やSAAの支援エリア拡大などが話し合われました。農業技術におけるSAAの協力も要望されました。



農業組合イベント 展示ブースの様子

また、同イベントは、ジャガイモの生産関係者間のビジネスリンクを構築する貴重な場となり、アルシイテヤ村のソロモンさんは、ジャガイモの種イモを求めるホレタ村のジャガイモ種苗業者とつながらとともに、ジャガイモの研究を手掛ける研究所（Dessie Tissue Culture Laboratory）や、ポテトチップスを製造する工場（Loli chips）ともコネクションを構築しました。

5. その他の活動国からのニュース

SAA 会長がマリを訪問、パートナーとの協力関係を構築

2024年3月、ササカワ・アフリカ財団（SAA）のアミット・ロイ会長はマリを訪問し、戦略的パートナーシップと協力関係の構築を目的に、様々な関係者との会談に臨みました。一連の会合には、マリ国内外のキーパートナーが参加し、マリをはじめとするアフリカ各国の食料安全保障と持続可能な農業に対する SAA の貢献を改めて表明しました。

マリ農業省のラシーヌ・デンベレ大臣とスレイマン・ヤクブ農業普及ディレクターとの会談は、予定時間を大幅に延長し、SAA の活動への理解を得ることができました。大臣は、SAA の現行の事業を加速・拡大させる必要性に触れ、より多くの支援を投入する必要があると述べました。

在マリ日本大使館の上籩英樹大使との会談では、日本外務省が資金提供を行う NGO 連携無償資金プロジェクトの進捗状況とマネジメントについて意見交換を行いました。上籩大使は、SAA の取り組みに強い関心を示され、プロジェクトの成功とさらなる展開のためには、透明性のある進捗管理が重要であると述べられました。

また、ロイ会長は、在マリ・オランダ大使館のアストリッド・マステンブローカー等書記官と意見交換を行い、現地コミュニティの意向を重視したアプローチから、開発プ

在マリ日本大使館で上籩大使（右から2番目）と会談



ロジェクトにおける裨益者の巻き込みの重要性を確認しました。

USAID との会談では、現地コミュニティの団体を優先して支援するという USAID の方針が SAA のバリューと合致していることを確認。同方針は、現地のキャパシティ構築による持続可能な開発を可能にし、コミュニティに長期的な利益をもたらすという認識で一致しました。また、USAID が今後も、同様のプロジェクトに協力的に関与し続けることも確認しました。

ロイ会長は、日本外務省が支援するサマンコ収穫後処理&取引センターも訪問しました。ラマダン（断食月）中の訪問にもかかわらず、女性を中心に200人以上が参加し、同センターの指導者たちは、保管庫（容量50トン）、研修施設、貯蔵タンク、ソーラーパネル、トラクター（2台）などの提供に感謝の意を表しました。

サマンコ収穫後処理&取引センター訪問



ウガンダの農村コミュニティ指導者、金融研修で能力向上

2024年2月、ウガンダの4県（ムベンデ、キボガ、オトゥケ、コレ）において、農業普及員や農家グループのリーダーなど68人を対象に、アグリビジネスへの投資の最適化やグループ貯蓄の管理／運営に係る研修を開催しました。同研修は、アグリビジネスへの投資のためのコミュニティ貯蓄組合（CSIA）モデルに基づき、経済的に疎外された人々に金融的・社会的エンパワメントの機会と投資の手段を提供し、貧困を緩和することを目的とした取り組みです。長期的で持続可能なファイナンス基盤を築きながら、当面の経済的ニーズに対応するため、貯蓄と投資の文化醸成を推進しています。

研修では、CSIAハンドブック、講義やケーススタディ、グループワークなどを通じて、貯蓄／投資の基本概念と運用に必要な知識を提供しました。

また、緊急のニーズに合わせ、農家メンバーのオーナーシップによる金融支援を提供することの重要性や、投資を普及・拡大するための戦略が強調されました。ウガンダでは、2020年よりCSIAの取り組みを推進しています。

2月の研修では、SAAの市場志向型農業コーディネーターであるアンデ・オキロがファシリテーターを務め、研修を通して参加者は、収入の制約や生活費の上昇など、貯蓄を減少させる課題を特定しました。これに対し、オキロ氏は、予算編成や緊急資金の設立など実践的な解決策を提案しました。

研修を終えた参加者は、金融機関を交えた資金調達に係る行動計画を備え、地域のCSIAリソースパーソンとして活動することが期待されます。

SAAは、農業普及員とともに地域の農業推進員（CAT・CBF）を対象とした次の段階の研修を実施する予定で、持続可能で拡張性のある地域の金融基盤構築の取り組みを支援していきます。

全文はこちら：<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=2&vid=576&lng=jpn>



オトゥケ県のCSIA研修の様子（ファシリテーターは、SAAのアンデ・オキロ職員）

SAA マリ事務所の年次ステークホルダー会合



SAA マリ事務所、年次ステークホルダー会合を開催

2024年3月7日～8日、マリの首都バマコにて、SAA マリ事務所の年次ステークホルダー会合を開催しました。「土壌の健全性向上に向けた環境再生型農業 (Regenerative Agriculture for Improving Soil Health)」をテーマに関係者が一堂に会した会合では、土壌の健全性を高める持続可能な農業に焦点が当てられました。

初日は、2023年のSAAの事業に参加した農家グループとそのアドバイザー・チームが活動を振り返った後、2024年の活動計画が発表されました。農家グループのリーダーたちは、農村が置かれた厳しい境下において、農家たちが貴重な知見を習得し、競争力を発揮する強靱な組織を構築するため、今回のようなディスカッションの場を定期的に設けてほしいと述べました。

2日目は、マリ農業省、セゲー大学、農業研究所IPR/IFRA (カティブグー)、およびNGOの関係者を迎え開催されました。SAA マリ事務所のハマド・タブソバ所長は、持続可能な開発と気候レジリエンスの文脈において、土壌の健全性に焦点を当てた本会合テーマの重要性を共有しました。農業省のオマール・タンブーラ総書記は、本会合のテーマが、マリ政府の政策の方向性と合致すると述べ、環境再生型農業がいかに気候変動の影響緩和と、生物多様性の向上、食料安全保障の確保に重要か強調しました。

SAA 環境再生型農業事業のリード・スペシャリストであるステラ・カビリ博士による対話型セッションでは、マリの気候危機に適した再生型農業技術や栽培方法の普及に

焦点を当て、活発な意見交換が行われました。具体的には、年間を通じた土壌被覆の維持や、生物多様性を高め、気候変動の影響を緩和する作付けモデルについて議論を深めました。

本会合は、マリの小規模農家にとって、環境再生型農業の技術と実践が大きな利益をもたらすことが確認されました。会合で得られた洞察と提言は、持続可能な農業実践の進展を促し、地域の農業発展と農家の暮らし向上に恩恵をもたらすでしょう。

全文はこちら：<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=1&vid=572&lng=jpn>

SAA、AFSTA2024年次会合（於：ケニア）で持続可能な農業への取り組みを紹介

ササカワ・アフリカ財団 (SAA) は、ケニアのモンバサで開催された第24回アフリカ種子協会 (African Seed Trade Association: AFSTA) 年次会合にブース出展し、ケニアのリントウリ・ミティカ内閣書記官 (農業畜産開発担当) をはじめとする多くの来場者に見学頂きました。

AFSTA は、2000年に設立された非営利組織で、種子産業の発展がアフリカ諸国の経済発展に貢献するという信念のもと、農業における改良技術の統合を推進しています。SAA は、昨年の会合で、AFSTA の公式メンバーとして承認されました。年次会合は、アフリカにおける高品質種子へのアクセス強化を目的としたパートナーシップ促進の貴重なプラットフォームとして機能しており、アフリカの農業セクターにおける一大イベントです。2024年の会合には、アフリカ国内外から、種子関連の生産者やトレーダーなど300人が集結し、プレゼンテーションやパネルディス



セッションを通じて、知識や改良技術を共有し、ネットワークを構築しました。

SAAからは、市場志向型農業コーディネーターであるヤレムゾウデ・テショメと、広報責任者エチオピア・タデッセが出席しました。

全文はこちら：<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=1&vid=573&lng=jpn>

SAA、ナイジェリアで農業普及員を対象としたシーズン前研修を実施

ササカワ・アフリカ財団（SAA）は、ナイジェリアにて、農業普及員を対象とした2024年シーズン前研修を実施し、カノ、ジガワ、ゴンベ、ナサラワ、ベヌエ、クワラの各州から90名の普及員が参加し、作付けシーズンに向けて、地域の農家を支援するための知識と技術をアップデートしました。

研修では、農業実践の改善と、農家間の技術と知識の共有を目的とした360カ所の農家学習プラットフォームの設立に重点が置かれました。

研修を受けた普及員は各州の農業開発プログラムと連携し、習得した知識や技術を農家に普及し、プロジェクトの波及効果の拡大に貢献していきます。

ナイジェリアのシーズン前研修に集結した普及員

